

2016年版

市長コラム集



市広報誌「広報こおりやま」に毎月掲載

市長コラム（2016年1月号に掲載）

市長コラム 机

新年おめでとうございます。

私の新年は徹夜で明けます。元朝参りに始まり、元旦の年賀郵便配達出発式での挨拶と行事が続きます。徹夜年明けも3年目になりますが、おかげさまで風邪も引かず、大過なく新年をことほがせていただいております。

さて、本題。昨年の新年号コラムは、お子さまたちの教科書事情を記しました。今年は、その教科書とは兄弟分の「机」の事を記します。皆さまのお宅では、お子さま、親御さまの机はいかがでしょうか？「人の事聞くな、自分のことまず言え」と、お叱り受けては何です、「私の机史」を記します。



小学4年生の時に木製机を買ってもらいました。引き出し2つのシンプルな机。今の学習机のように至れり尽くせりの小道具は全く付いていないすっぴんの机。でも、よくなじ

んで、中・高・大学とたびたびの引っ越しにも連れて歩きました。就職後も変わらず、退職まで使いました。数えれば45年のお付き合い。その間、一時は息子にも使ってもらいました。さすがに今は、物置に収まってもらっています。机は末代モノです。今風のカタツケ論からすれば落第ですが、何ともしおしく、捨てるに捨てきれずにあります。

机上の空論なんて使われ方もしますが、机に向かって本を読み、原稿を書かないと本や原稿に失礼のような気がします。今「どこでも読書、勉強」できるように、市の施設の空きスペースには「どこでもドア」ならぬ「どこでも机」と椅子を置くように努めています。なぜなら机と椅子があると、中高生が勉強机として使用してくれているからです。

「ウチは食卓で家族のいる所で勉強」というお宅もありましょうが、どうでしょう、一度机をおススメされては？「お父さん&お母さんはどうなの？」と言われそうでしたら、お父さん&お母さんも専用机をご用意あれ！在宅勤務にも備えて。毎月のこのコラムも机に向かって書いています。では、また来月に。

「ウチは食卓で家族のいる所で勉強」というお宅もありましょうが、どうでしょう、一度机をおススメされては？「お父さん&お母さんはどうなの？」と言われそうでしたら、お父さん&お母さんも専用机をご用意あれ！在宅勤務にも備えて。毎月のこのコラムも机に向かって書いています。では、また来月に。



▲中央公民館で自習する学生

市長コラム（2016年2月号に掲載）

市長コラム 本

入試の月、お子さまは今、教科書や参考書と首っ引きのことと思います。志望成就を祈念申し上げます。

市役所職員（私も含め）は、来年度予算の編成準備でパソコン画面と首っ引き。来年度の市民の皆さまの生活設計、経営方針に思いを致して予算作成に臨んでおり、好きな本を読む時間もなかなか取れません。日頃、予算編成に（結果として）役に立つ読書をしておきたいものです。

どんな本でも読みますと、たくさんの気付きに恵まれ、知る喜びに浸ることが出来ます。「昨日は今日の一昔」と言



われますが、その昨日までの森羅万象を記してくれているのが本です。

本はまた、今日の心の支えでもあります。

思考の穴を埋めてジグソーパズルの一片となってくれます。著者

は私に代わって調査、思考してくれた代行運転ならぬ代行研究者です。

私には、自らの心を奮い立たせてくれる本が2冊あります。1冊は知らぬ人となない楽聖の日記、1冊は一般的には虚無主義者と分類される、ある美学者の著書です。

これらは私に使命感をよみがえらせてくれます。生きる力を与えてくれます。

また、1冊の本の理解を深めるためには、その本の中に言及、引用されている本を読むことが、一助となります。かくして、本は本を呼び、限りありません。

本は思考の糧の無限倉庫。考える人は読む人でもありません。

人は言葉によって、記号によって考えますから、本は言わば考える素材の冷蔵庫です。冷蔵庫の中の食材は食べれば無くなりますが、本という冷蔵庫の中の食材は食べても無くなりません。

私にとっては現世の天地人（尊徳）が最良の教科書ではありますが、本は最良の参考書です。



ベートーヴェンの日記
メイナード・ソロモン編
青木やよひ/久松重光訳

市長コラム（2016年3月号に掲載）

市長コラム

スマホ

本紙2015年2月号で木戸前除雪の事を記しましたら、「除雪機配備せよ」とのご意見賜りました。「お手持ちの用具で可能な範囲で結構ですので…」と回答申し上げました。m()m

今年度の冬は雪が少なく助かっておりますが、26年度は約2億8千万円、25年度は約3億8千万円の除雪費を要した程でした。

市内の除雪をお引き受けくださった企業様、市民の方々に改めて御礼申し上げます。

今年度も降雪期前に除雪スタンバイをお願いし、適切に対処いただき、市民の皆様とともに感謝致します。時々除雪出動の基準のお尋ねがありますが、市は積雪10cmを目途に除雪出動をお願いしております。

郡山は坂の街。坂道や吹きだまりなど重点的に除雪する事としております。

交通には雪は困りモノですが、スキー、農作物には山の雪化粧は不可欠。天よ、雪を降り分けられよ、と祈りましょう。



路面から目を遠方に向けると、奥羽山系はうっすらと雪化粧。晴れた日には遠く那須連峰も望む事ができます。ビッグアイの展望階からの冬景色は、絶景カナ、絶景カナ。あさか野バイパス上、内環状線・八山田あたりからの眺めもナカナカのモノです。

そこでスマホ登場。1月からスマホで道の不具合の箇所など通報願う「ココナビこおりやま」がスタートし、高評を頂いております。（ココナビアプリを見いだしてくれた職員に感謝！）

最近ではスマホで、映像で街自慢（スマホメ！）が盛んになってきました。奥羽山系雪景色をスマホで配信もいいですね！です。スマホは道路補修にもお役立ちですが、用途はさまざま。白河市ではスマホ保育サイト、仙台市はスマホで街自慢を始めました。ビデオジャーナリストならぬスマホジャーナリストの誕生！スマホホテル、スマホスπιタル、スマホ保健など、スマホアプリは生活、企業経営の助っ人となってくれそうです。電子書籍も言ってみればスマホ本。当然、スマホにホの字、です。



市長コラム（2016年4月号に掲載）

市長コラム

行政コストハウマッチ？

4月は門出の月。おめでとうございます。

今はあまり耳にしません、**「ピカピカの1年生！」**というキャッチコピーもありましたね。もっとも、就職の方は通年採用というのも珍しくなくなりました。月は別としても、一斉定期人事異動というのは優れてわが国の人事風習のようですが、そのうち変わるかもしれません。

変わるといえば、市役所の単式会計制度（現金主義）も変わり目です。法律上の方式（単式）は変わりませんが、今年の秋には補足（ただし重要な）資料として、決算を複式簿記（発生主義）で説明申し上げることになります。

話せば長くなるのですが、複式は単式とどこが違うかといえば、地方債（借金）などを収入扱いしないで、負債として表記する仕組みになります。また、事業費もそれに要するコストを全



て含めて表記することになります。

例えば、この「広報こおりやま」。予算上は印刷費、配送費がコストとして表記されています。複式簿記では、編集、発行にかかる職員の人件費も含めて、事業費を表記することになります。

つまり、民間企業で発行すれば、その値付けと同じ計算方式で、コストが表記されます。

よく、民間経営と比べて「オヤクシヨ仕事は…」と言われるますが、それが数字で比較可能になります。これで初めて、定量的に民間サービスとのコスト比較が可能になります。民間にお任せした方がよい事務の選択も、よりデータに基づく比較ができるようになります。各種施設の利用料金も、コストベースで高い低いの議論が可能になります。事務や事業のどこをカイゼンすべきかも、データに基づいて検討することが可能になります。事務手数料も、施設利用料も、市民の皆さんがお勤めの企業のコスト感覚で、当否を論じていただくことが可能になります。

さあこの「広報こおりやま」の定価ハウマッチ？といった具合に。

市長コラム（2016年5月号に掲載）

市長コラム 桜

はや、目には青葉の季節ですが、今年は春も早く、桜は4月上旬に咲きそろいました。

ご子弟は、無事桜吹雪の中、入学式に臨まれたこととお喜び申し上げます。

古来、桜は我々日本人の心を騒がして、数多の歌を物させました。その道に疎い身ですが、以下桜賛歌（順不同）。

「明日ありと思う心のあだ桜夜半に嵐の吹かぬものは」、「敷島の大和心を人問わば朝日ににおう山桜花」、「風誘う花よりもなお我はまた春の名残をいかにとやせん」、「願わくは花の下にて春死なんその如月の望月のころ」（この花は梅との説もあり）、「清水へ祇園をよぎる桜月夜こよひ逢う人みなうつくしき」、「吹く風を勿来の関と思へども道もせに散る山



桜かな」、「春は花夏ほととぎす秋は月冬雪冴えてすずしかりけり」、「散る桜残る桜も散る桜」、「花に嵐のたとえもあるぞ さよならだけが人生だ」等々、心象風景は悲喜こもごもですが、しかし桜は、「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」に尽きます。

「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは」という方もおられますが、今年の郡山の桜の見事さを見ればやはり、花は盛りに、でした。それにしても、郡山は、桜がこれでもかと言わんばかりに、何と至るところ咲いてくださるのでしょうか。でもよく見れば、花に優しい花咲か爺さん（失礼！）の庇護あるところに咲いています。「桜守りの里郡山」です。

桜が有名な山は各地にあれど、郡山は全体が見山。これはこれとはばかり花の郡山。西の吉野山、東の郡山！これが今年の4月でした。

もう一言欲ばって、花もダンゴも郡山！



▲郡山公会堂の桜

市長コラム（2016年6月号に掲載）

市長コラム 私の連休

花の4月に九州で大地震。被災された皆さまに心からお見舞い申し上げ、併せて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。何かしなければと、焦る気持ちを抑えて、現地のご意向を確認し、人的・物的支援措置を行いました。義援金も多くの市民の方々の善意のもと、寄せられました。市民の皆さまも、市の職員も、協力くださった関係企業の皆さまも、きっと往時を思い出し、我事としてお力添えを賜ったことと存じます。改めて感謝と御礼を申し上げます。未だ余震は本震のごとく続いています。市民の皆さまとともに、九州に思いを寄せ、今後もの確な対応に努めて参ります。



思えば我国は、地震、噴火、豪雪、台風、そして津波と自然災害の集中する災害列島。日本列島の歴史は災害史抜きには語れません。先人は、その災害に耐え、生き抜く知恵を養い、身に付けた知恵と技

術を我々に伝え、指導してくれました。その知識情報は口伝では対応できるものではなく、あらゆる手段、媒体を使って後世に伝えることは我々の世代の義務です。

そして、文字、静止画、動画音声などを紙媒体、電子媒体などあらゆる媒体によって検索が容易であるように記録し、保持していかなければなりません。

被災しても、不本意な事態に出会っても、それにめげず雄々しく立ち向かっていけるような体制を築き、実際に運用できるようにしていかなければなりません。それこそが、市民総活躍の下の強靱（レジリエント：困難な状況下においてもしなやかに適応して生き延びる知恵と行動）な郡山と申せましょう。そうしてこそ、親子が互いに顔を見合わせながら走る、シティーマラソンが未永く続くことも可能になりましょう。等々、「治に居て乱を忘れず」とMr.レジリエント物語を熟読したゴールデンウィークでした。



▲今年のゴールデンウィーク読本。左から、大村智物語/馬場錬成著/中央公論新社、破綻からの奇蹟/森田洋之著/南日本ヘルスリサーチラボ、田中角栄/早野透著/中央公論新社、手話を生きる/斉藤道雄著/みすず書房

市長コラム (2016年7月号に掲載)

市長コラム 孫(その1)

私事で恐縮ですが、昨年10月末に初孫が生まれました。「生後半年経つと、母親からの免疫力が切れて風邪を引いたり、いろいろな健康上の心配事が増えます」とはある育児書の教えですが、幸い特段の事もなく元気に育っているようです。

遠隔の地で育っていますが、毎日ケータイで写真が届き、成長の程にほっとしたり、感心したりしています。

「這えば立て、立てば歩めの親心」とのことわざがありますが、期待の連続より、むしろ心配が先に立ってしまいます。



「親はなくても子は育つ」との、104歳の長寿を全うした祖母の言葉を時々唱えて心の支えにしています。

保育器の中の孫に初めて会ったときは、なぜか、宇宙始まって以来の今日までの生命の歴史を想ってしまいました。なぜこの宇宙に、生命、人類が誕

生したか?と。まっこと不思議不思議、生命現象としか言いようがありません。

この孫は次の生命の走者になるよう支えないといけなし、と喜びよりも緊張状態の8か月でありました。

そうは申しましても、我々の世代は人生50年時代の生まれですから、子ども時代に孫であったことが乏しい方も多いのではないのでしょうか。祖父母とは子や孫にどう振る舞うものか?体験学習の少ない世代です。

ダブルケア(※1)なる事態の経験知も少ないので、祖父母の在り方・生き方を模索しないといけません。

そこで、まず考えたことは自分の健康維持に努め、息子夫婦の手を煩わさないようにする事が第一。自らが先代に頂いた恩をそっくり次の世代に贈る「恩贈(送)り」が第二。あの人のじいちゃんは!と、孫が後ろ指を差されぬようにする事が第三。

以上3つが私の童子教(※2)ならぬ老子教。以って高齢者総活躍社会に備えます。

※1ダブルケア…子育てをしながら親の介護をしている状態。

※2童子教…鎌倉期から明治期まで使われた初等教育本。子どもが身に付けるべき基本的素養などが盛り込まれている。

市長コラム (2016年8月号に掲載)

市長コラム 孫(その2)

先月号のコラムで「這えば立て」を「立てば這え」と成長を願う性急な育翁の本音が露呈する誤り。お詫びして訂正いたします。孫の顔に免じてお許してください。

最近のケータイ育児日記では、お座りができるようになり、「立っち」までもうちょっと。明日はどこまでできるかな?などと(公務に支障を来たさぬよう)期待の日々です。たまたますれ違う小さなお子さま連れには、つい「おいつつですか?」「元気でいいですね」とお声をかけてしまいます。幸い「急二、コエカケナイデクダサイ」とか「アナタハドナタデスカ」などと叱られたり、不審者扱いはされず、それどころか、皆さまにこやかに、「間もなく1才です」などと応えてくださいます。TPOのよろしい状況のときには、どうぞお子さまにお声をかけてあげてください。



最近の研究によると1才までの間は、その後の成長にとって特に大切な時期と言われています。親御さんとの対話も、そのまま聞こえているかもしれません。胎内にあっても聴覚は機能しているとの所見もありますから、その可能性は大です。話し声も生活音もみどり児の耳障りになりませぬように…。

仕事柄、幼稚園や保育施設にも努めて訪問するようになっていますが、最近は併せて育翁学習も心掛けて先生方に心得を伺っています。年齢に応じてよく考え抜かれた教育、保育をされています。近年は、若い両親と祖父母の養育方針での見解の相違もあるようですので、お悩みの方は最寄りの幼稚園や保育施設に、お手伝いボランティアかたがたご教示を仰がれてはいかがでしょうか?

先生に「我々世代の訪問はいかが?」と伺ったところ「ウェルカム!」とのお答えを頂きました。帰りがけには「もう帰るの? また来てね!」と子どもたちのホロッと来る、うれしい「送ることば」もありました。



市長コラム (2016年9月号に掲載)

市長コラム 孫(その3)

孫がまた来てくれました。

毎日ガラケーに写真が送られてくるので成長の程は分かりますが、静止画ですのでどんな動きをしているかは、確とは分かりません。

いやー、よく動きます。何でも興味の対象に触ります。つかめるものは何でも口に入れてみます。テーブルの下、座卓の下、どこにでも行きます。私は誰でしょう？爺とは分かりませんからジイっと見つめます。(ジイっと見るからジイさんか?)



私に同情してか、にこっと笑ってくれます。それも束の間、とにかくよく動き回り、片時も目が離せません。

眠っているときもうつぶせにならないように、と見守らないといけません。

でも、赤子といえども行動の自由は大事ですので、危うくない限り、行き

たい所に行かせます。

その点、日本式居間はヨロシイですね。

まず下足を脱いで上がりますから、赤子がハイハイして動いても安心です。

座卓はいざとなれば立て掛けてスペースをとれます。(椅子、テーブルはそうはいきません。)

布団も押し入れに入れればまたスペースがとれます。(ベッドはそうはいきません。)

ただしトイレは、洋式のほうが排便の習慣をつけるのには好都合です。

等々、幼児には和式住まいが好都合のようです。かくして狭い我が家も子本主義で、片付け開始。

おかげさまで不要品廃棄も、片付けも進みました。

次は文字通り幼児目線の高さで室内点検し、触れて支障ないモノだけ置く作業。

孫の成長につれ、我が家も5S*が進みます。

次は孫に最初に読み聞かせする本は何にしようかと、本探し。諸先輩のアドバイス期待しております。

※5S…整理、整頓、清掃、清潔、しつけのローマ字での頭文字のSをとったもの。製造業・サービス業などの職場環境改善で用いられるスローガン。

市長コラム (2016年10月号に掲載)

市長コラム 防災訓練

そろそろ孫に「私のプライバシーを明らかにしないで」と、物心がついて言われそうですので、孫の話はひとまず休みます。

「初孫おめでとうございます」「かわいいでしょう」とご感想を下された読者に御礼申し上げます。とはいえ、8月27日に実施した総合防災訓練でも、今まで以上に乳幼児の安全確保はどうか、と孫視点は続いています。

私の出席した訓練会場は、芳山小学校と郡山第二中学校でした。さすがに1歳未満と思われるお子さんを連れていらっしゃる方はお見かけしませんでした。ほ乳瓶や粉ミルク、その他さまざまな育児用品の準備はどうだったのか、再確認が必要です。



年々、防災訓練に参加・協力くださる企業の皆さんも増え、感謝の至りです。

今年も、昨年に続きアマチュア無線連盟の方々に参加いただきました。少女無線士も来てくれました。私も無線資格を持っていますので、訓練の中で発信の機会をいただきました。訓練とはいえ、やはり緊張いたしました。幸い、連盟の皆さんの的確な準備のおかげで、「私の声を受信した」との返信がありました。他に衛星電話システムの展示・通話試験もありました。

防災分野でもICT活用が日進月歩です。気象庁の時々刻々の情報も、放送メディアからの情報も、テレビとともにスマホに配信され、それを受信するアプリが開発されて利用可能になりました。

スマホも、「ポケモンGO」などのエンターテインメント利用が目立ちますが、防災や学習、実務用のアプリも次々と開発され、その数は枚挙にいとまがありません。災害対策の成否は情報次第。市役所でも整備充実に努めています。災害対策室でそれらを一望いただけますので、見学を希望される方は防災危機管理課 ☎924-2161までお問い合わせください。



▲私のアマチュア無線のコールサイン

市長コラム (2016年11月号に掲載)

市長コラム ポブ・ディランも75歳！

秋冷の晴れた日には、磐梯山の頂上がちょこっと見え、安達太良山は裾野まで堂々と見える季節になり、冬への備えも必要な時期となりました。

9月は敬老会、10月はスポーツと祭りの月でしたが、これも冬に備えての行事と申せましょう。世代を超えて多くの市民の皆さまが参加くださいました。75歳以上をご招待する敬老会は、参加者を数えることが可能ですので、以下記します。



敬老会に招待申し上げた方は39,307人、参加された人数は集計中ですが、実行委員会数は52、実行委員は3,341人。お祝いのアトラクションに参加してくれた未就学児童は1,109人、小・中学生は3,049人、作文発表127人。敬老会は市の行事として、市長名義で案内申し上げておりますが、

実際の主催者は52の実行委員会の3,341人の委員の皆さまです。

この拙文の読者の方々も、さまざまな行事の実行委員をご経験と思います。

雨天なら中止か延期か、決行か、はたまた会場変更か？その際の連絡方法や連絡員は誰が？欠席された方へ記念品を届けるのは誰が？その受領確認方法は？療養先の確認は誰に何うか？救急体制は？と、心配事は数に限りがありません。実行委員の皆さま本当にありがとうございました。

出席者のご様子を拝見しておりますと、実行委員になってもいいよ、と内心想っておられそうな元気いっぱいの方も少なくありません。会場によっては、敬する側と敬される側との境目なしの会場も見受けられました。卒寿(90歳)の実行委員もおられました。

介護保険法の改正(平成26年度)で新しい総合事業がスタートし、元気な60～70代は介護を支える側になることが示されたのも、人生90年時代の然らしめる所でしょうか。これまでの老とこれからの老を語り合う会になっていくのも一法かと思う、今年の敬老会でした。

市長コラム (2016年12月号に掲載)

市長コラム 雪



稜線が澄んだ空にくっきりと見える季節になりました。山々は間もなく白妙を身にまとい横たわることでしょう。

今年も自然災害列島の我が国には、津波こそ無かったものの、地震、台風、豪雨、豪雪、噴火、竜巻が忘れる間もなく相次いでやってきました。

改めて被災された方々にお見舞い申し上げます。お見舞い頂いた方がお見舞いを下さった方にお互い見舞いし、支援の手を差し伸べ合う一年でした。「武士は相身互い」と辞書にあります、武士でなくても相身互う時代と申せましょう。



幸い、当市は深刻な事態に至る事は無かった一年でしたが、これからは豪雪が予想される時期に入ります。市役所は民間企業の皆さまのご協力のもと、11月から雪対策体制の準備に入っています。主

要道路は、国・県・市町村が所管に応じて除雪などに努めます。しかし、狭い道路や私道には手を打てない場合もあり得ます。歩道の除雪は市民各位のお力に頼らざるを得ない場合も少なくありません。そのときには、自助・共助、特に近助・隣助をお願いせざるを得ないことも大いに考えられます。

除雪の準備を頂くためにも、重要なのは早期の気象情報の入手です。いわゆる情報弱者の方々にも、十分認知・認識が可能な様式で届かなければなりません。幸い、11月6日の手話まつり会場で頼もしい助っ人に出会いました。それは、手話スマホ、手話LINEです。ICTは何よりの助っ人なんです。

意思が通い合う、通じ合うことは、とてもうれしいものです。非常時においてはなおさらです。インターネットが民間で自由に使えるようになって20年。ネット世代は今や社会の中堅。来年はこのネット世代がどんな助っ人を生んでくれるか、今から楽しみです。頼りにしています。



▲ICTの進展により、手話での会話も可能になりました